

テーマ：国際報道を考える

## 第12回 「サミット外交」

2008年7月11日  
毎日新聞 西川恵

主要首脳会議（サミット、G8、G8サミット）

### ▼サミットとは

山の頂。頂上。外交用語では、各国トップによる首脳会議を指す。

正式名称「先進民主主義工業国サミット」

現在の参加国：日、米、英、独、仏、伊、カナダ、ロシアの8カ国と欧州連合（EU）。EUは議長国の首脳と、委員会の委員長の2人

サミット議長は1年ごとに回りもち（仏、米、英、独、日、伊、カナダ06年にロシアが初議長）

きっかけは石油危機で深刻化したエネルギー問題や不況とインフレ問題などを契機に、世界の経済問題を首脳同士、ざっくばらんに話し合おうとフランスのジスカールデスタン大統領が提唱  
1975年11月、第1回サミットがパリ郊外のランブイエ城で開かれた（この時は仏、米、英、独、日、伊の6カ国。米国はフォード大統領、日本は三木武夫首相、西独はシュミット首相）  
第2回からカナダが加わり、EUは第3回はオブザーバー、第4回から正式参加。ロシアは97年のデンバー・サミットでまず政治討議に参加。経済を含めてすべての討議に参加するようになったのは03年のエビアン・サミットから

### ▼域外国の首脳との対話の開始

地域問題、地球環境問題など、徐々にG8だけでは処理できなくなる。ただ参加国を増やすと十分な議論ができない→サミット主催国が域外国の主要な首脳を招く形が始まる。「アウトリーチ（outreach）」会合（別名、拡大会合）。これに先鞭をつけたのは2000年の沖縄サミット。

ここ3年のサミットでは、アフリカ問題を討議する拡大会合と、その他の重要問題を討議する中、印、ブラジル、メキシコ、南アフリカの5カ国を招待する拡大会合の二本建て

### ▼過去の主要なサミット

米ウィリアムズバーグ・サミット（1983年5月）	安全保障問題に初めて踏み込んだ
仏アルシュ・サミット（1989年7月）	東欧の民主化支援を打ち出す
英ロンドン・サミット（1991年7月）	クルド問題で内政干渉権を打ち出す
仏リヨン・サミット（1996年6月）	グローバル化の光と陰がテーマに
洞爺湖サミット（2008年7月）	2050年に原炭化ガス半減確認

当初は世界経済の運営が中心課題。ウィリアムズバーグから安全保障問題も討議。環境問題の討議が本格化したのは89年から。首脳の議論はその時々の世界と、人々の関心のありどころを反映する

### ▼問われる首脳の存在感

過去、存在感と発信力を示したのは中曽根、小泉首相。短期だったが橋本首相

### ▼洞爺湖サミット（<http://www.g8summit.go.jp/>）

テーマ：世界経済問題、環境・地球温暖化問題、アフリカ支援・開発問題、政治問題  
政治問題は今回は、北朝鮮、イラン、ジンバブエ等

### ▼サミットの今後

参加国の拡大か、現状維持か

フランスはG13を主張。日米は難色。先進民主主義工業国という基準を維持するか、変えるか